

膵臓がんの予防

リスクファクターの周知と検査のすすめ



徳島大学病院
消化器内科講師

みやもと ひろし
宮本 弘志氏

膵臓がんは2014年の死亡数で第4位を占め、5年生存率は10%に満たない非常に予後の悪いがんのひとつと考えられます。膵臓がんの予防法に確立されたものはありませんが、リスクファクターとして、膵臓がんの家族歴、糖尿病、肥満、慢性膵炎、喫煙などがあげられています。これらのリスクファクターを有する場合には、膵臓がんを念頭にして血液中の膵酵素、腫瘍マーカー、腹部超音波検査などを行うことが勧められています。もちろん、リスクファクターを有する方が必ずしも膵臓がんになるわけではありませんが、膵臓がんリスクファクターがあることを知っていただき、リスクファクターを有する場合には定期的に検査を受けるよう心がけていただきたいと思います。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ | がん診療連携センター: Tel.088-633-7312
<http://www.tokudai-ganrenkei.jp>



がん相談支援センター

相談窓口 | Tel.088-633-9438

徳島がん対策センター

<http://www.toku-gantaisaku.jp>